

横浜市立東俣野特別支援学校 学校評価報告書 (令和2年度版)

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく 知	① 12年間の一貫した指導・支援を行うため、目標設定や指導・支援の手立てに関する確認や指導の振り返りを充実させ、職員間の共通理解を図る。② 個の実態やニーズに応じたコミュニケーションスキルを育成するための支援機器や自作教材の活用を推進する。	① 日々の振り返りや指導計画の中で、児童生徒の状況を共有し、個々の目標を意識した授業づくりや支援の在り方などについて意見を出し合った。② ネット環境が整い、zoom活用ができた。昨年に比べて少しずつ支援機器の活用の幅は広がった。	B
豊かな心	① 他者とふれあうことの楽しさや人とのつながりを体感できるように、東俣野小学校や大正中学校、若葉台特別支援学校との交流を充実させる。② 児童生徒の自尊感情や自己肯定感を育むために、他との関わりの中で「できた・わかった」という達成感を体験をする学習の場を積極的に設ける。	① 感染症予防のため、直接の交流は難しかった。共同作品、動画や手紙等、手立てを工夫し、交流に努めた。② 感染予防を含め、集団での取り組みに制限があったが、可能な限りの工夫をし、授業づくりに生かした。しかし、大きなステップを踏むことは難しかった。	B
健やかな体	① 健康保持のために、教職員間及び保護者との連携を密にし、個々の健康状態の把握と適切なケアについての共通理解を深め、併せて個々の特性に合わせた運動プログラムの充実を図る。② 口腔衛生の意識向上を図るために、年間を通して歯磨き指導を推進する。	① 健康状態の把握と適切なケアについて保護者と連携し、共通理解を深めた。感染症の影響で関係機関との連携は十分ではなかった。② 歯科検診・歯科巡回指導や休業中の歯みがきカレンダー等、年間を通して歯科保健活動を行い、ほげんだよりでも周知を図った。	B
専門性の向上	① 個々の目標に沿った指導の充実と評価の妥当性・信頼性を高めるため、小集団での特性に応じた指導について研究し、年度途中と年度末に報告会を持つ。② 様々な実態の子どもの捉え方、支援や関わりのある方、指導力の向上を目指して、PT研修・OT研修やその他の研修を有効に活用する。	① 個々の力を伸ばす授業を展開するために、クラス全体で授業内容や題材の工夫、単元や個別の目標について話し合い、授業を行った。② 校内でのPT・OT研修は、例年より少ない実施回数であったが、研修時にはねらいを明確にして日々の指導に活かした。	B
開かれた学校	① 教職員が質の高い指導を自信をもってできるように、チームによる指導体制を充実させる。② お互いの良い取り組みを学び合い、組織として生かすことができるよう、学年会や連絡会等で、良い取り組みや良い事例の共有をする。③ 学校運営協議会設置に向けての準備を行う。	① 学級担任複数が児童生徒に関わり質を高められるように、学級の実態に応じて指導体制を工夫した。② 学級の状況を報告しあい共有をした。また、感染症予防に配慮した新しい指導方法を模索し、共有するよう努めた。③ 令和3年度設置に向け、準備計画をしている。	B
安心・安全な学校	① 高度医療対応委員会を年間を通して開催し、人工呼吸器児保護者の校内待機のある方等を整理する。② 安全に対する意識の向上と組織的な安全対策整備のため、ヒヤリハット報告を集約・分析し、定期的に共有する。③ 停電時の対応を含めた体系的な危機管理マニュアルを整備する。	① 支援基準に従い、人工呼吸器児に対応。訪問籍児童生徒には、支援確認表ⅠⅡⅢを確認。② 休校等もあり、ヒヤリハット数は減少。事例は定期的に共有する。③ 各学級にポータブル電源を配置、使用し、課題を共有した。危機管理マニュアルの整備には至らず。	C
キャリア教育	① 将来の多様な社会参加を見据え、個々の資質や伸ばしたい能力を明確にし、キャリア発達の視点を持って地域資源を活用した進路学習の充実を図る。② 施設見学、進路面談・説明会・懇談会の充実を図り、一貫性のあるキャリア発達と社会的自立の意識を高める支援を行う。	① キャリア教育全体計画を作成。各学部で育てたい能力について明確に提示した。進路学習・実習は、感染防止を徹底し、関係各所と共通理解を図りながら安全に実施。② 感染予防のため、電話や文書を活用した進路面談や動画等を活用した施設見学や説明会を実施。	B
センター的機能	① 小中学校への教育相談の具体的な内容の周知と、児童生徒支援専任会やコーディネーター協議会との連携強化を図ることで、学校支援の活用へとつなげる。② 地域や支援に関わる人たちへ、子どもたちとの関わり方や車いすの操作等の各種研修を積極的に行うことで、理解啓発を推進する。	① 感染症の影響から巡回支援の件数が減少した。その分電話相談の件数は増加したが、今後このような環境下での教育相談の在り方を再検討したい。② 横浜市の特別支援教育支援員への研修を行った。しかし、感染症の影響から積極的な啓発を行うことが難しかった。	C
いじめへの 対応	① 教職員の適切な立ち振る舞いや言動が子どもの自尊感情を育むことを共有し、定期的にチェックシートを活用して子どもに向きあう教育職員としての姿を振り返り、課題の発見と改善を行う。② 毎月の連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行う。	① 各クラスの日々の振り返りで、いじめのことも含めた確認を行うようにした。定期的に月に1回は連絡会内でも話題にして周知をはかった。② 管理職、人権担当、連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行い、全職員の共通理解を図った。	B
人材育成・組織 運営(働き方改 革)	① グループウェアを活用して情報や課題の事前共有を行い、会議の精選化や効率化を図る。② 職員個々が業務の効率化への意識向上を図るため、定時退勤日を設定する。③ メンターチームを中心とした人材育成の中で、経験の豊かな教員の授業から学ぶ等のミニ授業研を行う。	① グループウェアを活用して学校運営の方向性や諸通知を共有。会議の精選や効率化までには至らなかった。② 打ち合せの回数減や会議時間等の調整により業務効率化を促した。③ 定期的に研修を設け、特別支援学校における基礎知識・技能の習得を支援。また、課題を共有し、解決に向けて話し合った。	B
学校関係者 評価	○学校づくり懇話会委員へ「学校評価報告書」、「学校づくりアンケート」等の内容、結果を書面にてお伝えし、ご意見を頂く予定。		
評価結果に 対する学校の 見解	○学校づくり懇話会委員より頂いたご意見は、今後の学校運営や中期学校経営方針の策定等に活かしていく予定。		
学校経営 中期取組目標 振り返り	中期学校経営方針の2年目を終えた。今年度は「新型コロナウイルス対応」が中心となる中、「専門性の向上」「関りを大切にす学校」「安全安心な学校」を目指した取組を行ってきた。目標達成に向け各担当で努力を重ねてきたが、目標を達成できない部分も見受けられた。3年目の次年度はより具体的な目標設定を行い「一人ひとりが輝き、成長する学校」を目指して学校経営を行っていく。		